

別紙 1

論文審査の要旨

報告番号	甲・㊦ 第 3112 号	氏 名	和田 紀子
論文審査担当者	主査 川添 和義 副査 巖本 三壽 副査 岩井 信市		
(論文審査の要旨) 論文タイトル Integrating cancer patient' s satisfaction with rescue medication into pain assessments (がん疼痛患者における満足度を取り入れた評価方法の構築) 掲載雑誌名 The Showa University Journal of Medical Sciences 2020, in press 本論文は、日常的なオピオイド鎮痛薬の疼痛評価に痛みの強さ以外にも患者自身の満足度を加えることで、疼痛評価がより有用になるかどうかを調査した結果について著されたものである。 痛みの強さとして NRS (numerical rating scale) を用い、患者の満足度とオピオイドレスキュー薬の効果を評価した。その結果、レスキュー薬の満足度と最大 NRS($r = -0.15$)及び平均 NRS の相関に統計学的な有意差はなかった。一方、レスキュー薬の満足度は、レスキュー薬の効果と強い正の相関がみられた。また、痛みの強さに応じた満足度及びレスキュー薬の剤形の違いによる満足度には差がなかった。以上のことから、NRS が大きくてもレスキュー薬に対する満足度が高い患者もあり、NRS のみでオピオイド鎮痛薬の疼痛評価を行うことは不適切と考えられた。一方、レスキュー薬の満足度は薬の効果を反映しており、疼痛評価に痛みの強さとレスキュー剤の満足度を取り入れることで、簡便にオピオイド鎮痛薬の効果を反映した疼痛評価が可能と考えられた。このような、NRS によらない患者の満足度評価システムの構築はこれまでなかったものである。 以上の内容は薬学的観点から重要な事項を含み、今後の臨床薬学研究にも大きく資するものである。また、学位論文に関する質疑にも的確に回答することができており、博士 (薬学) として相応しいと判定した。			

(主査が記載、500 字以内)